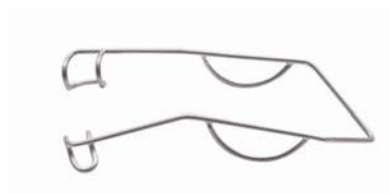


2013年5月新製品

K1-5330 幼児用ワイヤー開瞼器 3mm/5mm ブレード



新生児及び乳幼児用に設計されたこの開瞼器は、3mmと5mmのブレードを組み合わせ、眼瞼からの容易な着脱が可能です。作業中、左右どちらの手でも使用しやすいように設計されています。

K1-5660 リーバーマン氏幼児用開瞼器、ワイヤーブレード



乳幼児を開瞼する際、時にワイヤー式の開瞼器では、バネの力では十分な開瞼を得るのは難しいことがあります。この開瞼器は開閉のコントロールがしやすいように、小さなリーバーマン式調節機構と短めのアームを搭載しました。ブレードは5mm幅です。

K1-5665 同上、ソリッドブレード



上述の K1-5661 とほぼ同じですが、5mm幅ソリッドブレードを搭載しています。

KT3-2426 アニス氏核操作具 ボールチップ 直、チタニウム
(JFC 品番：1KPD2426)



チタニウム製の K3-2426 を新たにご用意しました。一段細長く、緩くカーブした先端部に、長いボール (0.6mm幅/0.8mm長) 状のチップがついています。これは安全性に注視してデザインされた操作具で、嚢内の組織片を動かす時などに有用です。



KT3-2427 アニス氏核操作具 ボールチップ 曲、チタニウム
(JFC 品番：1KPD2427)

前述の KT3-2426 とほぼ同じですが、先端から 10mm離れた部位に曲がりがあります。



K4-5075 ホランド氏 DALK 剪刀、曲、鈍



深層層状角膜移植 (Deep Anterior Lamellar Keratoplasty/DALK)が広く一般的に普及するとともに、数々の新しい製品が開発されました。カティーナはケンタッキー州ユニオンのエドワード・J・ホランド先生と、この術式に向けた製品の開発に取り組み、この鈍刃/4.5mm長/曲のバナナス式

剪刀を開発しました。“ビッグ・バブル”を作成後、組織を4分割方向に切除するのに適しています。鈍刃の剪刀先端は、使用時の危険性や下層部組織へのダメージを最小に抑えます。

K5-2912 ペール氏 角膜鑷子、右
K5-2914 同 左



この微細な先端の角膜/強膜鑷子は、ニュージャージー州リビングストンのセオドア・ペール先生によって、組織片の安全な把持と調整のために設計されました。的確な設置のために0.08mmの1x2歯、結紮台、半球状ガイドピンを搭載しています。刻み目のあるラウンドハンドルとコリブリ式シャンクで、角膜手術の際に威力を発揮するでしょう。



K3-2440 ドネンフェルド氏 FEMTO スパーテル



カティーナはフェムトセカンド白内障手術の執刀医として有名なニューヨーク州ロックビルセンターのエリック・ドネンフェルド先生と携わり、レーザーで作成した切開部を開くための新しいスパーテルの開発を行いました。先端部は1mm長の平らな槍状で、弧を描くような動作で切開部を開放することができます。また、創口部捜出や突刺の手助けとして使用できます。ASICO社でも同様のスレードスパーテル

がありますが、このドネンフェルド式の槍状先端は、突刺やあらゆる開創の局面でより有用となることでしょう。



K3-2450 ドネンフェルド氏 FEMTO 分割具、右（左利き術者用）

K3-2451 同、左（右利き術者用）



フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術では、事前に設定したレーザーで、水晶体を除去しやすいように微細に分割することができます。広く一般に知られる手術器械のひとつに LenSx® System があります。この器械では核を4分割して2mm幅のセントラルボウルをつくりませんが、この分割具はこの器械で細分化された分割片を、より除去しやすくするために設計されました。この器具はシャフト部に、前述のレーザー機器で作成されたセントラルボウルに完璧に適合するカーブ部が設けてあります。このカーブ部が合致することで設置面から効果的に分割片を除去することが可能です。術者の利き手に合わせ右/左の2種類の用意があります。



K7-3585 後嚢染色カニューラ、25 ゲージ、曲



白内障手術時にコントラストを上昇させるために前嚢表面をトレパンプルーで染色することは近年よく見られるようになりました。この染料を処置する際の器具として、染色専用のカニューラを作成しました。この25ゲージのカニューラには、円状の先端から0.3mm

下がった後部に0.2mm径のポートがあります。8mmに曲がり角が設定されていて、後嚢のあらゆる場所に染料を塗布しやすいように設計されています。



K7-3510 アルビッシェー氏 A/C カニューーラ 27 ゲージ

奥目の患者への処置の際、患部へのアクセスは困難を伴うことがままあります。根元から曲がりへの距離が短く（2.5mm）、5.5mm長先端部のこのカニューーラは、そのような局面で威力を発揮するでしょう。



K5-5095 フロラキス氏 内皮鑷子



角膜及び白内障手術の際に角膜内皮移植を行うことは増加の傾向にあります。加齢や外傷による細胞疾患や細胞減少を持つ患者にとって内皮移植は早期回復、より少ない痛み、手術による乱視誘発が少ない等、拒否する理由が見当たらないようにも見えますが、代替となる術式もまた現れてきています。この術式において第一人者であるニューヨーク州のジョージ・フロラキス先生は、角膜から内皮摘出のために、この鑷子をデザインしました。非常に繊細な逆向きの三角形状先端（ユートラタ氏式より20%小さい）は組織片を把持した時に、可視しやすく正確な取り扱いの補助となるよう75°に設置されています。緩く弧を描いたシャンク部は、開創部を無理に広げることなく角膜すべての部位にアプローチが可能です。この鑷子はデスメ膜剥離や、その際の残留組織の除去などに使用できます。



K 3-2675 ラボー-レスター氏 IOL マニピュレーター、曲、短ハンドル



多くの術者がその術中計測の必要に応じて、高機能の角膜形状解析装置を採用していることでしょう。これらの有用な機器は顕微鏡のマイクロスコープ部の先端に設置されることが多く、これにより術者の作業エリアや術野は制限されてしまいます。テキサス州グレイプバインのフィリップ・カーク・ラボー先生は、この制限された術野での効果的な作業のために、広く使用されている手術器具を短ハンドルで再考案しました。この器具は奥目の患者やさらに狭眼の患者にも有用です。このマニピュレーターは既存のレスターフック（K3-2690）と先端部寸法は全く同一で、ハンドルの長さが29mmということだけが違います。

K 3-3212 ラボー氏毛様体解離スパーテル、0.5mm、短ハンドル



この毛様体解離スパーテルは、上述のマニピュレーター同様、短ハンドルの製品です。緩く湾曲した5.5mm長でベベル状チップのスパーテルです。0.5mm幅の後部表面は平らになっています。

K 7-5155 ラボー氏 A/C カニューーラ、26 ゲージ、先端 0.5mm 砂地加工



この 26 ゲージの、根元から曲がり部まで 4.5mm 長の A/C カニューーラは、奥目や狭瞼の患者での使用に効果を発揮します。チップ先端部 0.5mm は薄く砂地加工してあり、安全な IOL 設置に役立つでしょう。

